

みあさづくり



頑張ったね！運動会！

美麻小中学校・美麻地区運動会

くりり

大雨の影響から1日延期になりましたが、晴れ渡った青空の下、6月4日に「令和5年度美麻小中学校・美麻地区運動会」が開催されました。「Let's enjoy! つながれ美麻の輝(ひかり)」のスローガン通り、力いっぱい元気いっぱい輝きあふれる運動会になりました。結果は、なんと赤組100点、白組100点という奇跡の同点！（子どもたちに聞くと2年連続だそうです）。赤も白も力一杯頑張った証だと思います。保護者の皆さんや地域の方からの声援を受け、一人ひとりが輝くことができました。皆さん、応援ありがとうございました！

(文責:美麻小中学校 吉岡伸 小倉克枝)



QRコードを読んでパソコンやスマホでもご覧ください。

ホームページ
美麻Wiki



facebook





行ってきました「メンドシーノ」！！

【Smile ~Friends Forever~】

2023訪問団のユニホームデザインです。生徒の皆さんがデザインしました。

美麻とメンドシーノの交流事業は、コロナ禍の影響により中断されていましたが、5年ぶりの再開しました。姉妹都市交流は30回を数え、メンドシーノへの訪問団

の派遣は15回目となりました。

今回は、39名(生徒27名、引率12名)が令和5年5月12日から19日の8日間訪問し、無事帰国しました。

5年ぶりの訪問交流

コロナ禍の影響のため、見合わせていたメンドシーノへの訪問を5年ぶりに実施することができました。感染予防の対応策が不透明だったことや為替相場の影響等による渡航費用の増大により、存続さえ危ぶまれるところもありましたが、多くの方からのお力添えにより再開できました。資金不足を補うために、参加負担金と大町市の助成金の大幅な増額に加え、多くの皆さまからの寄付金にも頼らせていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。訪問団の参加者からは、メンドシーノの皆さんから手厚い対応と心温まるおもてなしをいただいた報告がありました。相互訪問には空白期間がありましたが、40

年以上続いた伝統と友好の心は変わっていないことに安堵しております。

この訪問を通じ、参加者が何を見て、何を感じ、それをどう活かして行くのか。

こうした体験が、来訪者へおもてなしの心になり、それが次の人たちに引き継がれ、この事業は続いてきます。来年はメンドシーノの皆様をお迎えする年となります。地域の皆様のご協力をお願い申し上げます。

(メンドシーノ姉妹都市交流実行委員会 会長 小林 敏文)



見送りの様子



訪問を通して感じたメンドシーノ

今回、訪問団の団長として総勢39名でメンドシーノを訪問いたしました。新型コロナウイルスを取り巻く情勢や世界的な変化による渡航環境の変化もあり、一抹の不安を抱えての出発となりましたが、支えていただいた交流実行委員会、メンドシーノの皆さん、並びに地域の皆様のおかげで、大きな成果とともに無事交流事業を全うすることができました。

まず、長旅を経てメンドシーノに到着した際、我々を出迎えてくれたのは、メンドシーノの皆さんの満面の笑顔でありました。それは、ホストファミリーに限らず、街中で会う人の誰からも細やかな心遣いを

いただきました。こうした心温まる対応は、40年以上に渡り築き上げてきた、地域と地域、人と人との信頼と友好に裏打ちされたものであることに気づく瞬間でもありました。今回、多くの子どもたちにとっては初の海外生活。ましてや、日本語を話せる人が近くにいない、そのような中、多くの聴衆を前に堂々たる太鼓の演奏を見せた「たくましさ」と、臆することなくホストファミリーと打ち解け、他の観光客と同様に買い物を満喫できる「柔軟性と適応力」に驚きました。また、学校での交流を通して、子どもたちは「自由」には「責任」も伴うこと、また自らが動かなければ何も得られないことを学びました。これらの経験は、子どもたちの大きな財産となり、将来への可能性が確実に広がったと思っています。

来年は、我々がメンドシーノの皆さんをお迎えする番です。今回、子供たちが受けた感動を、来日するメンドシーノの皆様にも味わってもらえるよう、引き続きのご支援・ご協力をお願いする次第であります。

結びに、この訪問を支えて下さった保護者や地域の皆様、関係の皆様そして我々を温かく迎えていただいたメンドシーノの全ての皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(2023メンドシーノ訪問団

団長 矢花 久則(大町市副市長))



アートセンターにて

生徒の成長を感じたメンドシーノ

5年ぶりの訪問に際し、美麻地区の皆様方より多大なるご支援をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

入国審査を一人で行う場面。市内での買い物をしているときにトイレを借りたくなった場面。スーパーのレジで請求されたお金を財布から取り出す場面。日本であれば、何の苦もなくクリアできるこれらの場面が、異国の地では大きな壁となります。生徒によってこれらの壁の越え方は異なりましたが、この壁を一つ一つ越

え、たくましさとしなやかさを身につけて27名の生徒は帰国できました。

「たくさんコミュニケーションがとれてうれしかった」「自分からチャレンジしないとチャンスはなくなる」「英語を勉強して、今度は翻訳機じゃない自分の英語でお礼を言いに行きたい」先日の報告会での生徒たちの言葉です。今後もメンドシーノとの交流事業が末永く続いていきますよう、皆様方のご理解とご支援をお願いいたします。

(2023メンドシーノ訪問団

副団長 山口 直行(美麻小中学校副校長))

メンドシーノ訪問再始動

コロナ禍の影響でストップしていた訪問交流が5年ぶりに再開しました。今回の訪問はコロナ禍が完全に収束する前から計画を始め、高額な渡航費用や入出国に係る検査などで苦労しながらも、行政、保護者の皆さん、地域の皆さんなどの努力により実現しました。訪問団の構成は、従前の5、6年生ではなく、休止期間中に行けなかった3学年での訪問としました。学校訪問交流での太鼓演奏、消防署体験、アートセンターでの体験、メンドシーノの町の見学や買い物などを楽しみました。

歓迎会やさよならパーティーでは、ホストと共に多くの交流関係者が参加し手造りの料理などで交流を楽しみました。今回は中学生(7~9年生)が参加したことで、積極的に英語での会話をする姿が多くみられました。

来年度の訪問団の美麻受け入れでは、ぜひメンドシー



K-8スクールで絵を書きながら交流。メンドシーノの学校には、幼稚園 (kindergarten) 児 (5~6歳) から8年生までが通っています。通学する生徒の年齢は米国の教育制度の典型的なものです。

ノでのホスピタリティにお返しができるかと思います。結びに、昨年、他界された元校長デイビッド・グロス先生には謹んで哀悼の意を表し、交流事業へのご尽力に感謝したいと思います。

(ボランティアネットワーク 前川 浩一)

デジタルサイネージで情報発信！

支所にて訪問中にデジタルサイネージ(電子情報発信)にてリアルタイムで配信を行いました。

現在は美麻小中学校正面玄関にディスプレイを設置し、メンドシーノ訪問中の様子をご覧いただけます。しばらくの間設置しておりますので、学校にお寄りの際には、ぜひご覧ください。



お別れの日 K-8スクールにて 大勢の皆さんにお見送りいただきました。その列は300mも続きました。

メンドシーノ姉妹都市交流協会(MSCA)からのメッセージ(日本語要約)



キャロリンさんは、(はっぴ右の女性)

Renewing a tradition that has gone on for decades, the Mendocino schools welcomed the arrival of a student exchange as part of the Mendocino Sister City Association with Miasa-Omachi Japan. Twenty eight students and 12 adults arrived May 12 to applause and a "Welcome" dinner at the Mendocino K-8 School after a lapse off three years in exchanges due to Covid. Japanese visitors were placed with local "home-stay" families with children who may go to Japan next year. So many fun activities were planned that the group was in constant motion. From fire truck rides around Mendocino village to shopping and a visit to the Mendocino Art Center the days were packed. School visits were provided so the visitors saw classrooms from kindergarten to high school and saw a peek of how schools work in America. The 12 adults got a day without responsibilities on Sunday and their hosts took them wine-tasting, to the Botanical Gardens, shopping, and to a potluck where the group sang Japanese songs to their hosts. The last day ended with a "See You Again" dinner that packed the Caspar Community Center with 150 folks as gifts were exchanged and memories shared. A tribute was read to the late retired Middle School Principal Dave Gross, who participated in dozens of exchanges over the decades and was missed. On the 17th, the visitors left for the Bay Area and their return to Japan and there are families looking forward to Mendocino's visit to Japan next year carrying on a tradition of decades.

メンドシーノの学校は、何十年にもわたって続いてきた伝統を新たに、メンドシーノ姉妹都市協会の一環として美麻の学生を歓迎しました。

5月12日、新型コロナウイルスの影響で2018年以降の4年間、交流が途絶えたメンドシーノの学校に39名の訪問団をお迎えして歓迎ディナーがおこなわれました。

美麻の皆さんは、来年日本に行く可能性のある子供を持つ地元の家庭にホームステイしていただきました。

市内見学では、消防車の乗車やショッピング、メンドシーノアートセンターの訪問など、充実した一日でした。K-8スクールの訪問ではアメリカの学校の仕組みを垣間見ていただけだと思います。

日曜の自由行動日には、ホストからワインの試飲、植物園への買い物、フォードフラッグに行き、グループはホストたちに日本の歌を歌って来ました。

最終日、さよならパーティーの行われたキャスパークミュニティセンターには150名が集まり、プレゼントの交換や思い出を共にしました。その際、数十年にわたり交流に関わってきた、故デイビッド・グロス氏(交流事業創世期の中学校長)への追悼文が読みあげられ、別れを惜しまました。

17日、訪問団は帰国の途につきました。すでに数十年の伝統を受け継ごうと来年の訪日を楽しみにしている家族もいます。

(MSCA Carolyn Zeitler (キャロリン・ツァイトラー))



交流事業の報告会を7月3日に美麻支所講堂で開催し保護者や地域の皆さんなど大勢の参加をいただきました。

9年生の代表3名が6月13日に牛越市長に交流事業の報告しました。

「メンドシーノの皆さんは温かく、優しさを感じた」「最初は思うように言葉が伝わらなかったが、自分なりに伝えられるようになって楽しかった」など、初めて訪れたメンドシーノの印象や交流事業の感想のほか、「自分の気持ちを表現することの大切さを学んだ」と訪問で培った経験を今後に生かしたいと決意も述べていました。



左から、栗林暁生さん、牧瀬香春さん、八木奏和さん



～生徒の感想～

が出てきて空が一気に明るくなった瞬間。こんな感じで、地上だったら見られない景色がたくさん見れました。次に楽しかった

私が一番最初に楽しかったことは、飛行機です。人生初の飛行機だったので、すごくドキドキしました。飛行機に乗って、雲の上まで行くと晴れていてすごい綺麗でした。飛行機に乗ってる間には、6つの美しい景色を見ることができました。1つ目は、昼のどこまでも続く青い空。2つ目は、夕日の色に空が染まっていく空と雲。3つ目は、夕日が雲海に沈む瞬間。4つ目は、だんだん紫になっていって星が見え始める空。5つ目は空が暗くなって、流れ星が流れた瞬間。6つ目は、朝日

したのは、サンフランシスコに着いてバスでゴールデンゲートブリッジの見える公園で休憩したときです。お昼ごはんは、サンドウィッチとお菓子とオレンジ2個とジュースでした。初めての、アメリカご飯はとても美味しかったです。また、「すごく大きいね！！」と言ったら半分と言われてとっても驚きました！！その周りの家や景色にも驚きました。家は同じ作りのものが並んでいて統一感があったり、公園はのどかな感じなのに、少し先を見るとめっちゃ都会だったりして面白かったで

お世話になった人との思い出

- ・ホストの家の裏庭みたいなところに散歩に行った。(バナナスラッグ3回ぐらい見た)
- ・敷地をバギーみたいなやつで走ったこと(笑えるぐらい広かった)
- ・翻訳してくれてめっちゃありがたかった。
- ・一緒にレッドウッドの森に行ったときに、そこにあった川でホームステイ先の人たちが泳いだこと。僕は、寒くて泳がなかった(笑)



学校交流で感じたこと

- ・みんな自由だな～でも、やることを自分で考えて自分からやらないといけないから、勇気があるな～。

・K-8スクールで太鼓を演奏した時に、メンドシーノの生徒たちは、珍しそうに真剣に演奏を聞いてくれて、嬉しかった。



このメンドシーノ訪問で達成できたこと・学んだこと

- ・自分からチャレンジしないとチャンスがなくなる。
- ・実際に英語を話す人と過ごしてみて、結構しゃべれたし自信がついたと思う。
- ・学校で習っている英語がしっかり役に立った。
- ・個人目標であった「英語をがんばる」が達成できた。自己紹介を英語で上手にできた。
- ・アメリカの人の親切さをつよく感じた。アメリカの印象がとてよいものになった。

・言いたくても言えない英語があった時に、近くの先生に聞くことができた。今後、英語をさらに頑張っていきたいと思った。

楽しかったこと

- ・ホームステイ先にバスケットゴールがあったので、N君とホームステイ先の子と4人でバスケットボールをしたこと。
- ・メンドシーノの最終日のお別れ会で、みんながダンスをしているのを見るのが楽しかった。
- ・ホテルで夜11時くらいまで、コーヒーを飲みながらテレビを見たこと。



K-8スクールでの、絵を使ったコミュニケーション授業

メンドシーノ姉妹都市交流事業の歴史を紹介

長い年月をかけ交流は、相互訪問など異文化交流を通じた人材育成としてひとを育む地域、学校の特色ある交流となっています。

1977 (S52) 年

メンドシーノアートセンター (MAC) の創設者ウィリアム・ザッカ氏と親交のあった 芸術家、吉田遠志氏が旧美麻南小中学校を日本版MACとして活用を始める。

1980 (S55) 年

二人の芸術家の交流が発展し、メンドシーノと美麻村が、友好姉妹都市締結。

1992 (H4) 年

メンドシーノの人達からいただいた「青少年育成のために野球場作った野球場で一緒に 野球をしませんか？」と手紙がきっかけとなり、第1回訪問団を派遣。

2006 (H18) 年

市町村合併により交流は大町市に引き継がれ、姉妹都市の継続協定が締結。

姉妹都市交流は、訪問団の派遣以外の様々な分野へも発展。

2002 (H14) ~ 2007 (H19)

ボランティアが中心となって、美麻とメンドシーノで高校生の通年留学を実現。

2009 (H21)、2014 (H25)

メンドシーノで太鼓を演奏するため「メンドシーノに太鼓を贈るプロジェクト」を実施。

2010 (H22) 年

美麻小中学校とメンドシーノK-8スクールが国際姉妹校を締結。



交流の原点「メンドシーノアートセンター」



国際姉妹村の締結のお祝いが独立記念日のパレードで行われた。



野球場「フレンドシップパーク」
1992年にメンドシーノから送られた絵画
美麻公民館に展示してあります。



1993年メンドシーノ・ボランティア・ネットワークの活動が本格化。機関誌第1号を発行。



2002年から
高校生の通年留学を受入れ



2010年 美麻小中とK-8校が
国際姉妹校となる。

コミュニティ・スクールのお話

朴葉（ほうば）巻き作り体験 ～1・2年生～

講師の鈴木幸さんとボランティアの皆さんにご協力をいただき、6月13日（火）に朴葉巻き作りをしました。子ども達は作り方を教えていただき、粉に水を入れてこねる作業では、1年生と2年生が一緒になってこねている班もあり、ほほえましく思いました。生地であんこを包む作業では、手際が良くて上手に包む子が多かったのですが、中にはあんこがとびでて苦労してしまう子もいましたがボランティアの方も温かく見守っていただき、みんな楽しそうに作っていました。3時間目はボランティアの方と一緒に作った朴葉巻きをおいしくいただきました。給食前でもあったので、食べるのを1個くらい

にした方が・・・と思うのですが、おいしくて2個食べた子もいました。子ども達はとても満足そうでした。（文責2年生担任 徳嵩 敏幸）



千見城遠足4年生 5/12



千見城までの道は、グチョグチョだったりガタガタしたり細かったりして大変でした。最初は恐怖でいっぱいでしたが、徐々に慣れていきました。最後の方は石が滑って、とても苦労しました。はしごは下りの方が怖かったし、ぬかるみに足がはまって

大変ですが、そんな苦労もあり登り終わると達成感がありました。

千見城址で、文化財センター勝野さんに戦国時代のお話を聞いて学習をしました。何回もこの場所を取り合ったことや有名な武将が戦ったことを教えていただき、二重の中島由子さんには千見城の合戦の時の民話を聞きしました。

お弁当を食べた後に探検もしました。急な坂をおりると洞窟や、大きな岩がありました。岩の上は風が吹いてとても気持ちよかったです。自然の中をたくさん冒険でき楽しい遠足となりました。

（文責4年担任 矢口秀幸）

「その人の立場になって・・・」



大町市社会福祉協議会から講師を迎え6月22日（木）福祉体験教室が行われ、7年生は視覚障害について学習をしました。お話をお聞きし誰でも使いやすいように作られた商品（ユニバーサルデザイン商品）をたくさん見せていただきました。目の不自由な方の体験ではペアを組み一人はアイマスクを付け、もう一人はガイド役で校舎を歩いてみました。階段や人の流れの中、見えない状態で歩くということがどんなに怖いことか

生徒なりに理解したようでした。ガイド役も難しく体験して初めてわかったことがたくさんありました。身体が不自由な方達に出会ったとき、どのようなお手伝いができるかを考え、生徒の自主的な支援活動に期待するところです。

〈生徒の感想〉・アイマスクをして歩くのは怖かったです。

・シャンプーやリンスの容器に点字がついていることを初めて知りました。

（7年担任 嶺村亜矢）

コミュニティ・スクールのお話

美麻小中学校 ボランティア研修会開催

美麻スクーパーターズ主催の「第1回ボランティア研修会」を5月27日（土）PTA作業後に開催しました。講師に今回もNPO法人いわてNOP-NETサポートの菊原広人さんをお招きし、スクーパーターズのボランティアをはじめ、美麻小中学校の先生方や保護者等たくさんの方にお集まりいただきました。

Unlearn（学びを手放す）をキーワードに、話題のチャットGPTも例示いただき、「学びは時代と共にどんどん変わる」こと、「自分で本物の答えを探る」ことの重要性について学習させていただきました。それを自分たちの活動に活かし、スクーパーターズとして子ども達や学校と、どのように関係を深めて行くべきか



を改めて考える機会となりました。少人数のグループのワークショップを中心とした研修会で、和気あいあいと楽しみながらも有意義な研修会となりました。

（美麻スクーパーターズ 小林敏文）

美麻小中6年生 親元を離れ団体生活を体験



美麻・八坂小中学校の6年生10人が6月21～25日、育てる会八坂美麻学園での「通学合宿」に参加しました。

通学合宿は、地元の児童が山村留学センターに宿泊し、短期間ですが親元から離れ、大勢の仲間との団体生活を通して協力することや譲り合うこと、物事をやり遂げることを学ぶ機会です。コロ

ナにより4年ぶりの開催となりました。

初日は大黒前でスクールバスを下車し、坂道を約4・5km歩いてセンターに帰宅。帰宅後は、センターの決まりを教わり、みんなで入浴や食事、太鼓の練習をしました。3泊をセンターで過ごした後は、八坂地区ならの森でセンターの小学生20人と一緒に1泊2日のキャンプを実施。テントでの宿泊が初体験の児童が大勢いましたが、試行錯誤してやり遂げることができました。参加した児童は「最初は不安だったけれど、山留生が色々教えてくれて、キャンプも楽しく過ごせた」と話しました。（美麻公民館）

～春のPTA作業にご協力ありがとうございました～

先生方や保護者の皆様、5年生以上の児童生徒の皆さん、スクーパーターズの方々のご協力の下、5月27日に学校敷地内の草刈りや小枝整理等の作業が行われました。

昨年度の反省を活かし、アンケートの作成から作業場所の分担・配置、美麻地区と特認校地区保護者の顔合わせに至るまで十分配慮したつもりで迎えた作業当日でしたが、思わぬ不備が発覚してあたふたすることも…。そんな頼りない委員長のピンチを救ったのは、協働委員の方々の機転と臨機応変な行動力だったことは言うまでもありません。

皆様からお寄せ頂いたご意見を参考に、委員同士で反省点と対策・改善について話し合い、

秋の作業や来年度の課題として共有していきたいと思っています。

作業にご協力頂きました皆様には、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

（美麻小中学校協働委員長栗林）



草刈りボランティアお疲れ様でした



建設業協会や地域づくり会議のご協力のもと、市道沿いを中心とした草刈り作業を6月17日（土）実施しました。市道蟻坂線・万中片岡線・一字田川手線の作業を行いほぼ全域を整備していただきました。市道沿いの草刈りは、支所に対応しなければならぬところ各団体のご厚意により整備ができ心から御礼申し上げます。（美麻支所産業建設係）

昭和50年代から継続しているボランティア活動です、今年も各社で協力し、無事終了することができました。ご協力ありがとうございました。（土尻会）

美麻地区を単位とした地域課題を解決する事業として、高齢化等で住民だけでは手の回らない環境整備を会員の協力をいただき、今年度も青具自治会から支援要望があった片岡地区（2、1km）と一字田川手線（1、2km）市道沿いの草刈りを16人の方にご協力をいただきすべての整備ができました。ご協力ありがとうございました。

（美麻地域づくり会議）

【会員活動支援事業報告】：土尻川源流環境整備プロジェクト

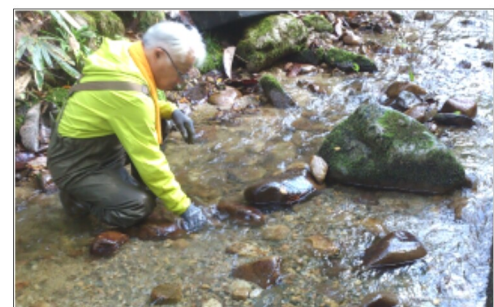
このプロジェクトは、土尻川的环境保全や岩魚の生息数の増加、および小中学生の溪流環境教育を目的とし、2019年に当時の北沢建治青具自治会長が発起人となりスタートしました。県の水産試験場からのアドバイスを受け、岩魚の人工産卵場の造成と美麻小中学校での発眼卵の飼育・観察、稚魚の放流事業を行いました。また、総合学習として、土尻川および稲尾沢の生物調査を行い2020年には学校でのビオトープ池造りの指導をして、2021年からは岩魚生息数の増加に向けて5000個程度の発眼卵放流を開始、事業のほとんどは、2023年も引き続き継続しています。さらに、水産試験場も2年前から土尻川流域の岩魚生息数の調査を始め、稚魚の生息環境を整備す

るプロジェクトも計画中だそうです。近い将来、美遊の前で子供たちが川遊びを楽しめる河川環境が復活するかもしれません。

*ビオトープとは動物や植物が安定して生活できる生息空間

（青具自治会プロジェクト責任者

北沢建治、阿部克也）



地域SNSシステム構築実証実験【参加者募集】

美麻地域づくり会議と（一社）地域づくり美麻では、地区内の情報共有、防災情報の発信等を目的に、スマートフォンやパソコンで利用できる地域SNSシステム実証実験を行っています。美麻地区全体での利用に先立ち、システムを利用しながら活用方法や使用上の提案について一緒に検討していただける方を募集していま

す。参加を希望される方は下記までお問い合わせください。

～お問合せ先～

美麻地域づくり会議事務局 美麻支所総務係

Tel 29-2311

Fax 29-2333

E-mail:miasa-soumu@city.omachi.nagano.jp

身近な地域の環境整備に、 電動草刈り機を貸し出し ます。



美麻地域づくり会議の会員、協賛者、自治会加入世帯への生活支援サービスの一環として電動草刈り機の貸し出しを行います。

■貸出内容

電動草刈り機、予備バッテリー、充電器

■利用料

刈刃式 半日300円、1日 600円
(消耗品別)

ロープ式 半日500円、1日1000円
(消耗品含)

※刈刃はご自分で用意してください。貸出時に 購入もできます。

※お届け、引取りを希望される場合は、別途料金がかかります。

※地域の共同作業で使用する場合の利用料は

減免します。

【アドバイス】 電動草刈り機は、軽くて静か、安全に使えるので女性でも扱いやすいです。一方で、長時間の作業や丈の長い草刈りには向かないかもしれません。

詳しくはお問い合わせください。

(お問合せ先) 一般社団法人地域づくり美麻

mail: 1syamiasa@gmail.com

TEL 080-8048-5667 (平日9:00~17:00)

美麻産の鹿革 販売します！

捨てられている地域資源を活用しようと、有害鳥獣として駆除された鹿皮の活用を検討してきましたが、このたび「美麻産の鹿革」として製品化できました！

今後は、鹿革製品も製作、販売していきます。手芸や工芸で使いたいという希望も多く寄せられたので、希望する方への革の販売と予約注文を承ります。また、革製品づくりに挑戦してみたい方には、製品づくりワークショップを計画しているほか、革用ミシンの貸し出しもいたしますので、お問い合

わせください。

現在ある色は、茶、赤、緑、濃紺、無色の5種類です。

【アドバイス】野生の鹿から作った革です。現物を確認してからの購入してください。





鹿革づくりワークショップ2023 Vol.1

有害鳥獣対策が進んでいる中で、鹿を駆除して駆除される鹿が増えています。駆除された鹿はどのようにして活用されていますか、肉はどのようにして活用されていますか、この鹿、本道産の「鹿皮」から「鹿革」をつくる過程を通して、有害鳥獣対策と結びつき、地域経済の活性化、新たな観光資源を生み出すワークショップを企画しました。持続可能な地域づくりの一環としてご参加ください。

鹿革づくり WORKSHOP

会場：道の駅ほのからうららぎ美麻ほのか

参加者募集

コース① R5.7.29 ~ R5.12月
コース② R5.8.29 ~ R6.1月

対象年齢 18歳以上
募集人数 各コース5名
参加費 3,000円 ~ 25,000円

参加費には、材料代、加工費、送料、送料別札等が含まれます。

■ワークショップの内容は、
① 鹿皮の鞆（かぶ）し体験
② 活（く）り革の現場見学
③ ジビエ食肉加工施設の見学
④ 鹿料理を食べる
⑤ 革工場の見学
⑥ 鹿革アクセサリー作り
⑦ 鞆した革の受け取り
⑧ 自分革グッズのオーダーメイド

ワークショップの詳細について、申込時に事務局にご確認ください。
○注1 ①-③は、選択いただけます。不参加は参加費が戻ります。
○注2 予約定数は、申込数の中からお選びいただけます。
○注3 申込数以外のオーダーは要相談（送料別札が発生します）。

お問い合わせ先 一般社団法人地域づくり美麻 TEL 080-8048-5667
E-mail: 1syamiasa@gmail.com
お申し込み先 美麻地域づくり会議 事務局 TEL 0261-29-2311

参加者募集

鹿革づくりワークショップ

鹿革づくりを通じて、有害鳥獣対策の現状と、解決策を一緒に考えるため、鹿が駆除されてから革になるまでをワークショップを通じて見学、体験いただけます。

ご自分で鞆した鹿革は買い取ることもできます。材料費等は、申込内容によって変わります。

詳しくはお問い合わせください。

(お問合せ先)

一般社団法人地域づくり美麻

mail: 1syamiasa@gmail.com

TEL 080-8048-5667 (平日9:00~17:00)



QRコードを読み取って、スマホからも申し込みます。

9年生が鹿皮の活用を学ぶ (美麻市民科)

美麻小中学校9年生10名が総合学習「市民科」の授業で美麻地区で鹿皮の加工をお願いしている飯田市の工場(株式会社メルセン)を7月19日に見学しました。

今回の訪問は、有害鳥獣対策や特産品に取り組む地域の方からの情報を元に生徒が、鹿皮の具体的な活用について専門家の話を聞きたいと見学を依頼し実現しました。

メルセンの中川武人社長から動物の皮革利用の歴史などの説明を受け皮から革になる行程を見学しました。

工場見学には地域の方も参加し、見学に合わせ地元で取れた鹿皮の革加工も依頼しました。

(美麻地域づくり会議事務局)



地域の話題



大町民話の里づくりもんべの会

美麻の口碑伝説

～語り継ぐ郷土の心～



「人食い山姥（やまんば）」

（今回は新行の話）

昔、よく深い若者が住んでいた。嫁をもらう年頃になり、「飯を食わずに良く働く嫁がいい」と言い、もらった嫁は、飯も食わずよく働いたが夫の心を予知することが出来た。気味悪く思い山仕事に行くふりをして物陰から見ていると、大鍋で飯を煮て、髪の間の大きな口にパックンパックンと詰め込んだ。嫁は山姥だった。嘘をついていたことをなじり離縁した。嫁は報酬にもらった風呂桶に男を入れ、山奥へ入って桶を下ろし大きな石で蓋をして、鬼たちを呼びに行った。そのすきに男は、シヨウブとヨモギの生えている沼に逃げ込んだ。しばらくして鬼たちは「人くせえぞ」と周りを探し回ったが、菖蒲とヨモギに触ると融けてしまうと大騒ぎし帰って行ってしまった。

五月の節句にシヨウブとヨモギを軒に刺すのは、鬼除けのため。

また、風呂にシヨウブとヨモギを入れてはいると丈夫になり病気をしないと
言われていた。

令和5年度「美麻地区敬老会」のお知らせ

今年度の敬老会につきまして、本年度は新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着いてきたことから、9月27日（水）に式典を実施いたします。久しぶりにお友達と顔を合わせて、懐かしいお話しをしませんか。美麻地区に住所のある満75歳以上の176名の方が対象となります。対象の皆様へは、7月上旬に招待状をお送りしました。お問い合わせ

せて大勢の皆さんのご参加お待ちしております。
※今年度も新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、祝宴は行わずお茶とお菓子でご歓談いただきます。また、感染拡大等の状況により、式典を中止する場合がございます。ご了承ください。（美麻地区敬老会実行委員会）

夏の交通安全やまびこ運動実施中！

「信濃路は みんなの笑顔 つなぐ道」をスローガンに、7月22日（土）から7月31日（月）まで夏の交通安全運動が行われています。

行楽シーズンを迎え、交通量が増える時期です。子どもや高齢者を始めとする歩行者の

安全を確保しましょう。また、自転車等を利用する際は、交通ルールを遵守し、命を守るためにヘルメットを着用しましょう。ドライバーの皆さんは、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を心掛け、交通事故を防止しましょう。（交通安全協会 美麻支部）

■ 編集・発行

美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・ 電子メール info@miasa.info